

< 実践事例 文京区立大塚小学校 >

1. 取組・活動名

「障害者理解の促進 ～みんな大切・みんな幸せ～」

2. 取組・活動のねらい

障害者との交流や車椅子体験など、児童が実際に体験することで、障害について理解を深める。

○パラリンピアンとの交流を通し、パラリンピックについて理解を深める。

○障害者を支える人たちの仕事や考え方にふれることで、互いを尊重する共生社会を探究する。

3. 教育課程上の教科名・時数

「総合的な学習の時間ほか・10時間程度」

4. 実施上の工夫

- ・学校地域支援本部の方にコーディネートをしていただき、オリンピック・パラリンピアンを中心に積極的に外部講師を活用した。
- ・障害のある方とのふれ合いを通して学ぶ機会を多く設けることで、共生社会の実現に向けて自分ができることについて考えさせた。
- ・外部講師を招く際には、講演だけでなく給食や遊びなどを一緒に行うことを通して、障害について理解を深め、相手意識をもったコミュニケーションが図れるようにした。

5. 本取組・活動の内容



「パラリンピアンとかけっこ教室」

- ・リオパラリンピック・走り幅跳び金メダリストの講師を招き、全校講演会の後、3・4年生を対象にトレーニングを体験したり一緒に競争したりする特別授業を行った。
- ・特別授業後は教室に選手を招いて、和食や民舞などの日本文化を紹介しながら給食交流会をした。



「障害者との交流や障害の体験」

- ・ブラインドサッカー体験（3～6年生）
- ・補助犬協会主催「ほじょ犬セミナー」（1・2年）
- ・日本視覚障害者柔道連盟主催、リオパラリンピック・視覚障害者柔道銀メダリスト講師による視覚障害者柔道体験（3・6年）などを実施した。



「パラリンピアン交流授業」

- ・夏季冬季の両方のパラリンピックに出場した講師を招き、全校講演会を開催した。
- ・その後、5・6年生を対象に走り方やトレーニング方法について、特別授業を行った

6. 成果

- ・一昨年度から、10名以上のオリンピック・パラリンピアンを講師として招へいした。特に、パラリンピアンとの交流を通して、障害をハンディキャップと感じずに夢を追いかける心の強さや努力する姿勢について学んだ。
- ・パラリンピアンとの交流以外の体験活動を中心とした特別授業を数多く開催することにより、障害者理解の促進や共生社会の実現に向けた意欲の向上につながった。
- ・障害や障害者について、マイナスイメージを抱いていた児童も、ふれあいなどを通して、自分たちと変わらないのだという心情の変化があり、地域で困っている障害者に声をかけるようにしていきたいなど、自分から関わり方を工夫しようとする姿勢が見られた。